2023年度事業報告

(2023年4月1日~2024年3月31日)

2023年度の世界は、ロシアによるウクライナ侵攻が3年目に突入、イスラム組織ハマスがイスラエルへと武力攻撃を行ったことでイスラエル軍による報復を招き、この二つの戦争に揺れた1年でした。日本では主要7カ国首脳会議(G7サミット)が広島で開かれ、「核軍縮」に焦点を当てた初めての首脳声明「広島ビジョン」が発表されました。国内政治の問題では自民党派閥の政治団体が政治資金パーティーの収入を裏金化していた疑惑が浮上し、岸田文雄政権は大きく動揺しました。アジア調査会はこうした内外の動きを注視しながら、中国問題を中心に講演会やシンポジウムを行いました。

主な催しとしては、「台湾海峡の平和と安定 米中対立・ウクライナ戦争・日本の安保政策転換を見据えて」と題する 国際シンポジウムを、台北経済文化代表処の協力を得て開催しました。台湾から姚人多・精華大学副教授が来日し、中 国の習近平体制が3期目に入ったことも念頭に置いて、中台関係を論じました。

定期講演会では、加茂具樹・慶應義塾大学総合政策学部長・教授による「大国化、集権化する中国とどう向き合うか」
▽木宮正史・東京大学大学院教授による「尹錫悦政権の『新外交』と朝鮮半島を巡る国際関係」▽北岡伸一・東京大学
名誉教授による「国連改革について」▽国分良成・慶應義塾大学名誉教授による「複雑化する中国情勢と日米中関係」
――を開き、『アジア時報』に詳細を掲載しました。

第35回を迎えたアジア・太平洋賞は、SOMPO ケア、日本生命保険、久永アンドカンパニー、三輝工業(大阪)、 公益財団法人渋沢栄一記念財団、カルチュア・コンビニエンス・クラブの協賛と一般財団法人 MRA ハウスの助成に より、滞りなく開催することができました。大賞の東島政昌氏(東京大社会科学研究所准教授)の『民主主義を装う 権威主義――世界化する選挙独裁とその論理』(千倉書房)をはじめ、特別賞2点、選考委員会特別賞1点を選出しました。 2022年に亡くなった中山俊宏・慶應義塾大学総合政策学部教授の著書は、選考委員会特別賞を設けて顕彰することに しました。

月刊情報誌『アジア時報』を 10 回発行しました。土山實男・青山学院大学名誉教授による「日本のリアリズム―― 日本は国際政治の現実をいかに把握し、どう動いたか」と野口武則・毎日新聞論説委員による「宮内官僚 森林太郎」 という書下ろし連載2本をスタートし、新たな読者の獲得につながっています。

事業報告からは外れますが、アジア調査会会長をはじめ政府の東日本大震災復興構想会議議長や防衛大学校校長などを歴任した五百旗頭真氏が3月6日、急性大動脈解離のため80歳で急逝する悲しい出来事がありました。2016年以来、第8代会長として約8年にわたりアジア調査会をリードした五百旗頭真会長のご冥福をお祈り致します。

以上

(1)調査・研究

◇ アジア研究委員会

アジア研究委員会は諸般の事情により現在、休止しています。

◇ 講演会・公開シンポジウム

定例講演会を5回、シンポジウム1回の計6回開催しました。

- 1. 回 数/ 6回
- 2. 講 師/日本人 8人 外国人 1人
- 3. 講演場所/東京 6回

2023 年度 講演会

〔東 京〕 2023年

① 加茂 具樹 (慶應義塾大学総合政策学部長・教授) 「大国化、集権化する中国とどう向き合うか」

4月28日 毎日新聞社内

② 木宮 正史 (東京大学大学院総合文化研究科教授) 「尹錫悦政権の「新外交」と朝鮮半島を巡る国際関係」

7月27日 毎日新聞社内

③ 北岡 伸一(東京大学名誉教授)

「国連改革について」

11月6日 日本記者クラブ9階

④ 国分 良成(前防衛大学校長)

「複雑化する中国情勢と日米中関係」

12月20日 毎日新聞社内

2024 年

⑤ 門間 理良(拓殖大学海外事情研究所教授)

「台湾総統選挙後の情報分析」(仮題)

2月2日 毎日新聞社内

2023 年度 国際シンポジウム

「台湾海峡の平和と安定 米中対立・ウクライナ戦争・日本の安保政策転換を見据えて」 2023年8月31日、日本記者クラブホール(東京・日本プレスセンタービル) パネリスト

姚 人 多 (台湾・精華大学副教授)

中 西 實 (京都大学大学院教授)

塩沢 栄一 (共同通信論説委員兼編集委員)

モデレーター

坂東 賢治 (毎日新聞社特別編集委員)

司会:岸俊光 (一般社団法人アジア調査会事務局長)

(2) 出版

月刊誌『アジア時報』を、10回発行(7·8月号、1·2月号は合併号)しました。講演会の詳報を掲載したほか、毎日新聞と協力して作成しているアジア・太平洋賞選考委員会らによる大型コラム「激動の世界を読む」を英訳付きで掲載しました。青山学院大学名誉教授の土山實男氏による連載「日本のリアリズム」と、毎日新聞論説委員の野口武則記者による連載「宮内官僚 森林太郎」を始めました。ともに専門家にも好評で、書籍化の話が進んでいます。また、永田小絵さん翻訳の連載「中国史の舞台裏 葛兆光 歴史随筆集」も、奥行きある中国文化を学べる恰好の読み物になっています。

(3) 事 業

◇ 第 35 回「アジア・太平洋賞」

アジア調査会創立25周年記念事業として、平成元年に創設され、内外の優れた著書を顕彰してきた「アジア・太平洋賞」 (協賛・SOMPO ケア、日本生命保険、久永アンドカンパニー、渋沢栄一記念財団、カルチュア・コンビニエンス・クラブ、三輝工業 (大阪) 助成・MRA ハウス) は、学会・出版界等の注目のもと、35回目を迎えました。応募総数は79点と、国際的にも注目される賞となってきました。

第35回の受賞著書は下記のとおりで、2023年11月13日に東京で表彰式を行いました。

《大 賞》 賞金 200 万円

『民主主義を装う権威主義 世界化する選挙独裁とその論理』〔千倉書房〕 東島 雅昌 東京大学社会科学研究所准教授

《特別賞》 賞金30万円

『石油とナショナリズム―中東資源外交と「戦後アジア主義」』〔人文書院〕 シナン・レヴェント トルコ・アンカラ大言語歴史地理学部准教授 『中国国有企業の政治経済学―改革と持続』〔名古屋大学出版会〕 中屋 信彦 名古屋大学大学院経済学研究科准教授

《 選考委員会特別賞 》 賞金 30 万円

『理念の国がきしむとき―オバマ・トランプ・バイデンとアメリカ』〔千倉書房〕 中山 俊宏 慶應義塾大学総合政策学部教授

◇ 毎日講演センター

各種の講演会や研修会に講師を斡旋する「毎日講演センター」は、依頼がありませんでした。

会 計 報 告

2023年4月1日から2024年3月31日までの会計年度における総収入は24,867,538円、総支出は33,253,947円、 差引損失金は8,386,409円となり、これを次期に繰り越しました。

附属説明書

該当事項がないため、記載を省略します。

第35回「アジア・太平洋賞」表彰式 主催 毎日新聞社 アジア調査会 後援 外務省 文部科学省 経済産業省 協賛 SOMPOケア 日本生命保険 久永アンドカンパニー 渋沢栄一記念財団 カルチュア・コンビニエンス・クラブ 三輝工業(大阪) 助成 MRAハウス



東島雅昌氏が大賞を受賞した第 35 回アジア・太平洋賞表彰式 = 東京都千代田区の出版クラブホールで 2023 年 11 月 13 日撮影



加茂具樹・慶應義塾大学教授 =毎日新聞東京本社で 2023年4月28日撮影



2023 年 7 月 27 日、毎日新聞 東京本社で講演した木宮正史 ・東京大学大学院教授



北岡伸一・東京大学名誉教授 =日本記者クラブ9階会見場で 2023 年 11 月 6 日撮影



国分良成・慶應義塾大学名誉 教授=毎日新聞東京本社で 2023 年 12 月 20 日撮影